

最近どこの小児科クリニックでもこんな場面が増えているのではないのでしょうか？子供の健診にお父さんがついてきたり、風邪や下痢での小児科受診をお父さんが頑張って連れてきたり。共働き家庭がきっと増えたんですね、お父さんの育児場面への進出です。

子供が最初にお話する言葉はマ行、パ行のような破裂音です。「マンマ」や「ママ」少し遅れて「パパ」。子供の言葉の世界でもママよりはパパのほうが後回しでした。

診察の場面、ママのおっぱいの近くに顔寄せお母さんに優しく抱かれながら安心した顔で聴診器を当てられる姿は微笑ましいものです。でも、お父さんのシャツをしっかり握って助けて～！って顔をしながら、でもちゃんと診察できている姿もとても素敵です。

子供はその育ちの中で、心のなかの第三者を作って成長します。大人のあなたもきっとあるはずです。困ったとき、辛い時、一人寂しくなった時、心のなかの誰か（それは自分の母親であることが多いですね）が、きっと大丈夫、あなたならそれを乗り越えていけるよと優しく声をかけてくれます。

お父さんがその子の心のなかの第三者に名乗りを上げるってとても素晴らしいことではないですか。

ある日のクリニックでこんなことがありました。嘔吐が続いて点滴をどうしてもしなければならぬお子さんでした。連れてきたのはお父さん。痛い点滴の針を挿すとほとんどのお子さんは「ママ～」って叫びますが、その子は「パパ～～！」って叫んだのです。小児科医をやって25年。初めて出会った衝撃でした。その衝撃が冷めぬうちに別のお子さんと同じような場面で「パパ～～！」って叫んだのです。二人のお子さんの心のなかにはしっかりとお父さんが刻まれていたんですね。

これを見ているお父さん！あなたも子どもの心をぐっと掴んだ素敵な育メンになってみませんか？子どもと遊ぶときもきっと今まで以上の楽しさに溢れていきますよ。